

4. 今後の路網整備の進め方

- 林道については、効率的なネットワーク形成のための路線配置や森林の利用形態に応じ規格・構造を柔軟に選択しつつ、森林施業の優先順位に応じた整備に努めることが必要
広域にわたって路網や効率的なネットワークが未整備な区域については、地域の状況に応じて、移動時間の短縮による森林整備の効率化等に見合った規格・構造での整備を進める必要
- 森林の区分に応じるとともに、計画、設計、施工全ての段階で周囲の環境との調和を図り、コスト縮減に努めることが必要
- 施業タイプごとの林道密度と森林面積から、望ましい林道の延長は26万km
- 作業道等については、高性能林業機械の効率的な稼働を一層進めるため、近年の路網作設技術の向上も踏まえ、施業の実施が予定される箇所ごとに、できる限り簡易で安定的な構造での整備に努める必要
- 多様で健全な森林づくり、森林・林業の再生等の喫緊の課題に対応するため、森林施業により効果的な林道や緊急に高密度な路網整備を必要とするものへの重点化を推進
- 効果的な路網整備の一層の推進のため、将来の森林の利用形態等を基にした路網の合理的な全体配置を検討

施業タイプに応じた基本的な林内路網密度

施業タイプ	林内路網密度 (m/ha)		
	林道等	作業道	
(傾斜に応じて)			
育成林	4.4～5.0	2.2～2.5	2.2～2.5
天然生林	17.5	17.5	必要に応じて

注：1) 林道等には公道その他を含む。

2) 上表の他に、導入する作業システムに対応した作業路の整備がある。

林道の延長 (千km)

将来の望ましい延長	現況延長 (H16年度末)
26.1	13.0

注）現況延長に公道その他を加えた密度は13m/ha、将来の望ましい延長は同様に18m/haとなる。